

# 大阪医科薬科大学薬学部

## 研究業績

2024 年度

(2024 年 4 月～2025 年 3 月)

## 目次

### 医療薬学領域

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 病態分子薬理学研究室..... | - 3 -  |
| 薬品作用解析学研究室..... | - 4 -  |
| 薬物治療学Ⅰ研究室.....  | - 6 -  |
| 薬物治療学Ⅱ研究室.....  | - 9 -  |
| 病態生化学研究室.....   | - 11 - |
| 生体分析学研究室.....   | - 13 - |
| 薬剤学研究室.....     | - 15 - |

### 薬学臨床領域

|                    |        |
|--------------------|--------|
| 製剤設計学研究室.....      | - 16 - |
| 社会薬学・薬局管理学研究室..... | - 19 - |
| 臨床漢方薬学研究室.....     | - 22 - |
| 臨床薬学教育研究センター.....  | - 24 - |
| 衛生化学研究室.....       | - 28 - |

### 生物・予防薬領域

|                  |        |
|------------------|--------|
| 感染制御学研究室.....    | - 31 - |
| 生体機能解析学研究室.....  | - 34 - |
| 生化学研究室.....      | - 35 - |
| 薬品物理化学研究室.....   | - 36 - |
| 機能分子創製化学研究室..... | - 37 - |

### 創薬科学領域

|                |        |
|----------------|--------|
| 有機薬化学研究室.....  | - 38 - |
| 医薬分子化学研究室..... | - 40 - |
| 生薬科学研究室.....   | - 42 - |
| 分子構造化学研究室..... | - 43 - |

## 薬学教育領域

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 薬学教育推進センター..... | - 45 - |
|-----------------|--------|

## 総合薬学研究センター

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 総合薬学研究センター..... | - 47 - |
|-----------------|--------|

## 総合科学系領域

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 言語文化学グループ ..... | - 49 - |
| 自然学グループ .....   | - 49 - |
| 人間文化学グループ ..... | - 50 - |
| 環境医療学グループ ..... | - 50 - |

## 生涯学習センター

|                |        |
|----------------|--------|
| 生涯学習センター ..... | - 51 - |
|----------------|--------|

## 病態分子薬理学研究室

### 学術論文

Tawa M, Nakagawa K, Ohkita M. 2024 Aug 19 Efficacy of BAY 60-2770, a Soluble Guanylate Cyclase Activator, for Coronary Spasm in Animal Models. *J Pharmacol Exp Ther* **390**(3):280-287, doi: 10.1124/jpet.123.001918

Tawa M, Nakagawa K, Ohkita M. 2025 Jan Different sensitivities of porcine coronary arteries and veins to BAY 60-2770, a soluble guanylate cyclase activator. *J Pharmacol Sci* **157**(1):1-7, doi: 10.1016/j.jphs.2024.11.002

### 学会

中川 恵輔, 大柴 依子, 田和 正志, 大喜多 守. Roxadustat がラット胸部大動脈の血管緊張調節に及ぼす影響: 生体機能と創薬シンポジウム 2024, 8 月 (京都)

中本 冬真, 中川 恵輔, 植田 春果, 勝部 晴子, 堂坂 知加, 古田 圭斗, 田和 正志, 大喜多 守. 糖尿病に合併する腎障害並びに血管機能障害に対する杜仲葉エキス慢性摂取の影響: 生体機能と創薬シンポジウム 2024, 8 月 (京都)

中川 恵輔, 大柴 依子, 壽喜多 麗雄, 田和 正志, 大喜多 守. ロキサデュスタットはラット胸部大動脈の血管緊張調節に影響を与える: 第 130 回 日本解剖学会・第 102 回 日本生理学会・第 98 回 日本薬理学会 合同大会 (APPW2025), 2025 年 3 月 (千葉)

田和 正志, 中川 恵輔, 大喜多 守. ビートルートジュース摂取が老齢マウスの血管内皮機能障害に及ぼす影響: 第 145 回 日本薬理学会近畿部会, 7 月 (広島)

中川恵輔, 中本冬真, 植田春果, 勝部晴子, 堂坂知加, 古田圭斗, 田和 正志, 大喜多 守. 杜仲葉エキス慢性摂取が糖尿病合併症に及ぼす影響: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

中川 恵輔, 中本 冬真, 植田 春果, 勝部 晴子, 堂坂 知加, 古田 圭斗, 田和 正志, 大喜多 守. 杜仲葉エキス慢性摂取が糖尿病合併症に及ぼす影響: 日本杜仲研究会 第 18 回 定期大会, 8 月 (大阪)

## 薬品作用解析学研究室

### 著書

米澤 章彦, 清水 佐紀. 2025 年 第 1 章 器官系概論「機能形態学 改訂第 5 版」 pp1-35,

### 学会

日下 綾菜, 石崎 悠斗, 井上 莉歩, 楠野 将也, 清水 佐紀, 大野 行弘. Kir4.1 チャネル阻害薬 Quinacrine の抗うつ作用メカニズム解析: 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2024, 8 月 (大阪) ※台風によりオンラインへ変更

波部 寛和, 石崎 悠斗, 武藤 瑠里, 清水 佐紀, 大野 行弘. 神経炎症性認知機能障害に対する quinacrine の改善機構: 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2024, 8 月 (大阪) ※台風によりオンラインへ変更

國澤 直史, 芹川 忠夫, 清水 佐紀, 大野 行弘. Age-related changes in seizure susceptibility and cognitive dysfunction in Phf24-knockout rats: 第 130 回 日本解剖学会・第 102 回 日本生理学会・第 98 回 日本薬理学会 合同大会 (APPW2025), 2025 年 3 月 (千葉)

大野 行弘, 國澤 直史, 河田 千佳, 後藤 光佑, 江原 滯, 清水 佐紀.  $\alpha 7$  ニコチン性アセチルコリン(nACh)受容体を介する 海馬アストロサイトの活性化作用: 第 145 回 日本薬理学会近畿部会, 7 月 (広島)

國澤 直史, 芹川 忠夫, 清水 佐紀, 大野 行弘. Phf24 欠損ラットの加齢に伴う認知機能変化およびけいれん感受性変化の評価: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

石崎 悠斗, 田中 愛結, 田川 未和, 東浦 真子, 清水 佐紀, 大野 行弘. 神経炎症性認知機能障害に対する Kir4.1 チャネル阻害薬 VU0134992 の改善作用: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

吉田 茜, 石崎 悠斗, 日下 綾菜, 井上 莉歩, 楠野 将也, 大野 行弘, 清水 佐紀. 予測不能慢性軽度ストレスマウスを用いた quinacrine の行動薬理的評価: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

田原 脩吾, 國澤 直史, 一色 南奈, 国吉 美柚, 中岡 太陽, 田中 杏奈, 清水 佐紀, 大野 行弘. Pentylentetrazole(PTZ)反復投与によるキンドリング形成および認知機能障害に対するレベチラセタムの効果: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

大野 行弘, 芹川 忠夫, 笹 征史, 國澤 直史, 清水 佐紀. 教育講演 2 : 疾患モデル動物を用いたてんかん病態・薬理研究: 第 48 回 日本てんかん外科学会, 2 月 (東京)

+-

## 学術論文

Tanaka S, Noda T, Urashima K, Kohda Y, Ijiri Y, Kato R. 2024 Jun Reactive metabolite of trovafloxacin activates inflammasomes: implications for trovafloxacin-induced liver injury. *J Appl Toxicol* **44**(6):846-852, doi: 10.1002/jat.4585

Asai H, Kato K, Miyasaka M, Hatsukawa K, Murakami N, Takeda N, Abe J, Aoyagi Y, Kohda Y, Gui MY, Jin YR, Li XW, Hitotsuyanagi Y, Takeya K, Andoh T, Kurosaki H, Fukuishi N . 2024 Kamebakaurin suppresses antigen-induced mast cell activation by inhibition of FcεRI signaling pathway. *Int Arch Allergy Immunol* **185**(9):836-847, doi: 10.1159/000536334

Imano H, Hayashi T, Nomura A, Tanaka S, Kohda Y, Yamaguchi T, Izumi Y, Yoshiyama M, Hirose Y, Ohta-Ogo K, Ishibashi-Ueda H, Kato R. 2024 Dec Suppressing the expression of steroidogenic acute regulatory protein (StAR) in the myocardium by spironolactone contributes to the improvement of right ventricular remodeling in pulmonary arterial hypertension. *Hypertens Res* **47**(12):3423-3433, doi: 10.1038/s41440-024-01908-z

## 著書

Ⅲ章 疾患と薬物治療 消化器系疾患, 30 胆管炎・胆嚢炎「薬物治療学 改訂 14 版」 pp237-239,

加藤 隆児. 2024 年 4 章 高齢者における疾患と治療 4 肺炎, 嚥下性肺疾患, 5 COPD (慢性閉塞性肺疾患)「ケースで学ぶ老年薬学」 pp74-90,

加藤 隆児. 2025 年 2 月 Chapter1 腎機能低下×薬物投与量調節のギモン, 4 腎機能が悪いなら肝代謝型にすべき? 「腎薬マネジメントの知恵袋 エキスパートが教える腎臓病薬物療法の投与戦略 月刊薬事 2 月臨時増刊号」 pp3-39,

## 解説・プロシーディング・紀要・その他

田中 早織, 幸田 祐佳, 加藤 隆児. 2024 年 ウゴービ皮下注 0.25 mg, 0.5 mg, 10 mg, 17 mg, 24 mg SD. *調剤と情報* 30(8):1172-11804

田中 早織, 幸田 祐佳, 加藤 隆児. 2024 年 ウゴービ皮下注 持続性 GLP-1 受容体作動薬. *循環制御* 45(1):71-74

## 学会

Nishimoto I, Noda T, Urashima K, Fujimoto A, Tanaka S, Kohda Y, Ijiri Y, Hayashi T, Kato R.  
Elucidation of the mechanism of gefitinib-induced immune related adverse reaction and search for biomarkers to predict its pathogenesis: 22th International Conference of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 9 月 (Banff, Canada)

Uemura K, Imano H, Noda T, Urashima K, Fujimoto A, Tanaka S, Kohda Y, Ijiri Y, Hayashi T, Kato R. Sorafenib activates inflammasomes leading to sorafenib-induced immune related adverse events: 22th International Conference of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 9 月 (Banff, Canada)

Ohno T, Noda T, Urashima K, Fujimoto A, Tanaka S, Kohda Y, Ijiri Y, Hayashi T, Kato R.  
Elucidation of the mechanism of amiodarone-induced immune related adverse reaction and search for biomarkers to predict its pathogenesis: 22th International Conference of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 9 月 (Banff, Canada)

Tanaka S, Noda T, Urashima K, Kohda Y, Kato R. The mechanism of flutamide induced liver injury via inflammasome activation: 22th International Conference of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 9 月 (Banff, Canada)

Kato R. Damage associated molecular patterns as a predictive biomarker of drug induced liver injury: 22th International Conference of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 9 月 (Banff, Canada)

Kohda Y, Matsumura H, Fukuishi N, Tanaka S, Kato R. Effect of thiamine supplementation on hepatic GIP modification in obese diabetic rats.: ASCEPT-APFP-APSA JOINT CONGRESS, 12 月 (Melbourne, Australia)

Kato R. Acetaminophen (APAP)-induced liver injury is an intrinsic or idiosyncratic liver injury?: Journal Club & Research Seminar, St Vincent's Hospital and School of Clinical Medicine UNSW Medicine and Health, 4 月 (Web 開催)

加藤 隆児. 薬物共有結合が与えるドライシンドローム発症への影響. ジョイントシンポジウム JS04 「ドライシンドロームの発症機序から解き明かされる疾患予防」: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

加藤 隆児. インフラマソーム活性化と特異体質性薬物性肝障害－基礎とリアルワールドデータの融合研究－. 一般シンポジウム S42「薬物性肝障害の最新知見と課題」：第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月（福岡）

加藤 隆児. 臨床研究と医療倫理の関係について考えよう. 学会誌編集委員会企画「Accept につながる研究デザイン」：第 18 回 日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会, 9 月（北海道）

加藤 隆児, 松元 加奈. 地域医療で求められる保険薬局薬剤師の TDM 業務について考える：第 34 回 日本医療薬学会年会, 11 月（千葉）

加藤 隆児, 松元 加奈. 外来診療および在宅医療における TDM の普及のために：第 40 回 日本 TDM 学会・学術大会, 7 月（札幌）

加藤 隆児. JSTDM-IATDMCT YS Joint Symposium 2024 in Asia Pacific region－Future prospects for PGx in TDM－：第 40 回 日本 TDM 学会・学術大会, 7 月（札幌）

高田 羽菜, 田中 早織, 幸田 祐佳, 井尻 好雄, 林 哲也, 加藤 隆児. カルバマゼピン誘発性肝障害発症機序の解明とバイオマーカーの探索：第 40 回 日本 TDM 学会・学術大会, 7 月（札幌）

岡田 真緒, 天野 悠斗, 平井 愛美, 芝野 真喜雄, 田中 早織, 幸田 祐佳, 井尻 好雄, 加藤 隆児. グリチルレチン酸と抗ジゴキシン抗体との交差反応性の検討：第 40 回 日本 TDM 学会・学術大会, 7 月（札幌）

田中 早織, 野田 拓誠, 浦嶋 和也, 幸田 祐佳, 加藤 隆児. フルタミド誘発性肝障害の発症バイオマーカーの検討：第 40 回 日本 TDM 学会・学術大会, 7 月（札幌）

川合 咲希, 田中 早織, 幸田 祐佳, 井尻 好雄, 林 哲也, 加藤 隆児. ヒト肺動脈内皮細胞におけるエサキセレノンの抗リモデリング作用：第 45 回 日本循環制御医学会総会・学術集会, 6 月（徳島）

西田 菜月, 小谷 万莉菜, 田中 早織, 幸田 祐佳, 井尻 好雄, 林 哲也, 加藤 隆児. 心筋細胞におけるアルドステロン局所産生機構とエサキセレノンの作用：第 45 回 日本循環制御医学会総会・学術集会, 6 月（徳島）

## 薬物治療学Ⅱ研究室

### 学会

金宗 潤, 清水 幹人, 岡田 健, 柳田 寛太, 山口 敬子, 松永 秀典, 坂口 学, 福森 亮雄.  
CLIPPERS CSF サンプルのマウス脳組織ベースアッセイ: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

速水 海登, 山本 廉, 福永 幸祐, 徳山 聖祐, 山口 敬子, 金宗 潤, 福森 亮雄, 柳田 寛太.  
細胞分化において重要な膜貫通タンパク質である *rat jagged1* のプロテアーゼによる切断機構: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

柿原 光希, 高嶋 結衣, 山口 敬子, 金宗 潤, 柳田 寛太, 福森 亮雄. TAM 受容体 *Tyro3* の段階的切断とその代謝機構の解析: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

平井 要, 岡田 健, 金宗 潤, 柳田 寛太, 山口 敬子, 松永 秀典, 加藤 隆児, 清水 幹人, 坂口 学, 福森 亮雄. 自己免疫性脳炎の新規抗原同定における *Caspr1* を用いた CBA の検証と課題: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

森田 さや香, 岡田 健, 汐崎 優衣, 山口 敬子, 柳田 寛太, 松永 秀典, 金宗 潤, 福森 亮雄. 抗 NMDA 受容体脳炎患者における自己抗体の新規検出法: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

井上 采音, 大西 由梨恵, 福永 幸祐, 山口 奈央, 山口 敬子, 金宗 潤, 福森 亮雄. APP ファミリータンパク *APLP2* の  $\gamma$  セクレターゼによる連続切断の解析: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

水田 梨穂, 柳田 寛太, 新宮 愛, 山口 奈央, 山口 敬子, 金宗 潤, 徳山 聖祐, 福永 幸祐, 村上 至仁, 岡田 健, 福森 亮雄. ミクログリアの増殖や生存に重要な分子である *CSF1R* の切断と細胞内局在: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

高部 大輝, 浦谷 桃果, 山口 敬子, 金宗 潤, 柳田 寛太, 福森 亮雄. 自閉症スペクトラム症関連タンパク質 *Neurologin-3* のプロテアーゼ依存的代謝機構の解析: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

福森 亮雄. アルツハイマー病の分子生物学的研究に関するご講演: 第 16 回 関西脳神経外科認知症研究会, 9 月 (大阪)

福森 亮雄. 認知症の診断・治療薬開発の戦略: 第 37 回 老年期認知症研究会, 7 月 (東京)

福森 亮雄. タンパク質の膜内切断: メカニズムの理解と医療応用に向けた挑戦: 第 97 回  
日本生化学会大会, 11 月 (神奈川)

## 病態生化学研究室

### 学術論文

Koike A, Hayashi K, Fujimori K. 2024 Jun 5 Involvement of necroptotic cell death in macrophages in progression of bleomycin and LPS-induced acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis. *Eur J Pharmacol* **972**:176572, doi: 10.1016/j.ejphar.2024.176572

Nakatsuji M, Fujimori K. 2024 Oct Adipocyte-conditioned medium induces tamoxifen resistance by activating PI3K/Akt/mTOR pathway in estrogen receptor-positive breast cancer cells. *Biochim Biophys Acta Mol Cell Res* **1871(7)**:119821, doi: 10.1016/j.bbamcr.2024.119821

Iguchi Y, Yamashita Y, Gohda K, Oda K, Fujimori K, Sera Y, Imanaka T, Yamaguchi M, Une M, Teno N. 2024 FXR antagonist FLG249 lowers hepatic triacylglycerol and serum cholesterol level in high-fat diet-induced obese mice. *Biol Pharm Bull* **47(8)**:1429-1436, doi: 10.1248/bpb.b24-00311

Sato N, Tsujimoto M, Nakatsuji M, Tsuji H, Sugama Y, Shimazu K, Shimoda M, Ishihara H. 2024 Aug 26 Flow cytometric analysis for Ki67 assessment in formalin-fixed paraffin-embedded breast cancer tissue. *BMC Biol* **22(1)**:181, doi: 10.1186/s12915-024-01980-4

### 学会

細見 健太, 中辻 匡俊, 大西 悠介, 川畑 茂, 廣瀬 善信, 藤森 功. 急性膵炎の進展制御におけるプロスタグランジン D2 の機能解析: 第 23 回 次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム 2024, 9 月 (石川)

細見 健太, 中辻 匡俊, 大西 悠介, 川畑 茂, 廣瀬 善信, 藤森 功. プロスタグランジン D2 の急性膵炎における炎症制御機構: 第 70 回 日本生化学会近畿支部例会, 5 月 (大阪)

中辻 匡俊, 藤森 功. タモキシフェンによるトリプルネガティブ型乳癌細胞の癌幹細胞様細胞への転換: 第 70 回 日本生化学会近畿支部例会, 5 月 (大阪)

栗栖 桜子, 越野 ひなた, 中辻 匡俊, 藤森 功. 低酸素下において脂肪細胞から分泌される脂肪酸によりトリプルネガティブ乳癌細胞の遊走が促進される: 第 70 回 日本生化学会近畿支部例会, 5 月 (大阪)

林 薫子, 小池 敦資, 藤森 功. 肥満が薬剤誘導性肺線維症に及ぼす影響の解析: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

細見 健太, 中辻 匡俊, 大西 悠介, 川畑 茂, 廣瀬 善信, 藤森 功. プロスタグランジン D2 によるセルレイン誘発性急性膵炎の炎症制御機構の解析: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

中辻 匡俊, 藤森 功. 脂肪細胞における TGF- $\beta$  誘導性細胞外マトリクス形成関連遺伝子の発現に対する Tamoxifen の影響: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

村上 拓未, 小池 敦資, 藤森 功. 肺線維化に対する生理活性物質イリシンの影響の検討: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

小池 敦資, 森川 奈胡, 濱田 悠音, 田中 麗子, 藤森 功. 熱帯植物アンディローバ由来リモノイドによる破骨細胞分化抑制機構の解析: 第 97 回日本生化学会大会, 11 月 (神奈川)

中辻 匡俊, 藤森 功. タモキシフェンによるトリプルネガティブ型乳癌細胞の癌幹細胞様細胞形質の獲得: 第 97 回日本生化学会大会, 11 月 (神奈川)

小西 純, 藤森 功, 濱村賢吾, 岩本媛美, 出水庸介, 有竹浩介. 造血器型プロスタグランジン D 合成酵素を標的とした PROTAC の迅速評価系構築: 日本薬学会 第 144 年会, 3 月 (神奈川)

## 生体分析学研究室

### 学術論文

Miyazaki A, Kanai Y, Wakamori K, Mizuguchi S, Futatsugi M, Hirano F, Kondo N, Temma T. 2024 Jun 4 Synthesis and evaluation of [<sup>18</sup>F]FBNAF, a STAT3-targeting probe, for PET imaging of tumor microenvironment. *EJNMMI Radiopharm Chem* **9(1)**:46, doi: 10.1186/s41181-024-00276-w

Kondo N, Yonezawa M, Hirano F, Temma T. 2025 Feb 21 Comparison of Exendin-4 and Its Single Amino Acid Substitutions as Parent Peptides for GLP-1 Receptor Imaging Probes. *Molecules* **30(5)**:1011, doi: 10.3390/molecules30051011

### 学会

Temma T, Hirano F, Kondo N, Murata Y, Sudani A. Development of fluorinated and  $\alpha$ -methylated 3-boronophenylalanine for BNCT/PET theranostics: 5th Japan-Taiwan Neutron Capture Therapy Academic Conference of Elite, 4 月 (大阪)

Hirano F, Kondo N, Kanai Y, Miyazaki A, Temma T. Development of 5-[<sup>18</sup>F]F- $\alpha$  Me-3BPA as a LAT1-targeted probe for PET imaging: The 12th China-Japan-Korea Symposium on Radiopharmaceutical Sciences, 9 月 (金沢)

Mizuguchi S, Miyazaki A, Kondo N, Machi S, Takagi Y, Temma T. Development of a luminol-derived radioiodinated probe for noninvasively detecting reactive oxygen species: The 12th China-Japan-Korea Symposium on Radiopharmaceutical Sciences, 9 月 (金沢)

Futatsugi M, Miyazaki A, Kanai Y, Kondo N, Temma T. Development of activated p38  $\alpha$  imaging probe: Evaluations in pharmacokinetics and in vivo targeting ability: The 12th China-Japan-Korea Symposium on Radiopharmaceutical Sciences, 9 月 (金沢)

加藤 万里可, 近藤 直哉, 平野 楓子, 宮崎 杏奈, 天満 敬 . インテグリン  $\alpha V \beta 3$  を標的とした放射性ヨウ素標識二環性 RGD ペプチド二量体プローブの開発: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

高田 慎也, 藤野 毅, 見島 伊織, Dehini Ganegoda, 原 史子, 堀山 志朱代, 天満 敬, 萩森 政頼. 生物中ホウ素の検出を目的とした蛍光プローブの開発: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

天満 敬, 平野 楓子, 近藤 直哉, 金井 泰和. BNCT/PET セラノスティクスのための 5-[<sup>18</sup>F]F- $\alpha$  Me-3BPA の開発 に関する研究: 第 18 回 日本分子イメージング学会総会・学術集会, 5 月 (東京)

天満 敬. BNCT 領域の発展のためのインビトロ・インビボ用創薬研究: 第 20 回 日本中性子捕捉療法学会学術大会, 7 月 (大阪)

平野 楓子, 近藤 直哉, 金井 泰和, 鈴木 健介, 宮崎 杏奈, 天満 敬. 5-[<sup>18</sup>F]F- $\alpha$  Me-3BPA の LAT1 標的 PET 用イメージングプローブとしての有効性評価: 第 20 回 日本中性子捕捉療法学会学術大会, 7 月 (大阪)

水口 芹奈, 宮崎 杏奈, 近藤 直哉, 町 紗耶加, 高木 陽子, 天満 敬. 生体金属の関与する酸化ストレスの検出を目的とした SPECT 用イメージングプローブの開発: 第 33 回 金属の関与する生体関連反応シンポジウム, 6 月 (岡山)

杜 洪欽, 高田 慎也, 近藤 直哉, 宮崎 杏奈, 萩森 政頼, 天満 敬. ボロン酸含有薬剤の細胞内局在解析を目的とした 2-(2-Hydroxyphenyl)benzothiazole 誘導体の開発: 第 36 回 バイオメディカル分析科学シンポジウム, 8 月 (静岡)

加藤 万里可, 近藤 直哉, 平野 楓子, 宮崎 杏奈, 天満 敬. 二環性 RGD ペプチドの二量体化によるインテグリン  $\alpha$  V  $\beta$  3 標的核医学 分子イメージングプローブの開発: 第 36 回 バイオメディカル分析科学シンポジウム, 8 月 (静岡)

二木未 来哉, 金井 泰和, 宮崎 杏奈, 近藤 直哉, 天満 敬. 生体ストレス環境の非侵襲的イメージングのための活性化 p38  $\alpha$  標的プローブの開発: 第 64 回 日本核医学会学術総会, 11 月 (神奈川)

松本 芽依, 高田 慎也, 原 史子, 堀山 志朱代, 天満 敬, 萩森 政頼. BNCT 用薬剤の有効性評価を目的としたレシオ変化型ボロン酸蛍光プローブの開発: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

## 薬剤学研究室

### 学会

Nagai J, Yamazaki M, Takahashi A, Urakami-Takebayashi Y, Ohno Y, Motohashi H. Effect of the hypoxia-inducible factor prolyl hydroxylase inhibitor roxadustat on expression of breast cancer resistance protein (BCRP/ABCG2) in human kidney epithelial cell line HK-2: 2024 ISSX/JSSX Meeting, 9 月 (Honolulu)

山崎 百合香, 本橋 秀之, 古川 理貴, 竹林 裕美子, 永井 純也. ラットにおける血糖バイオマーカー 1,5-anhydroglucitol 及びグルコースの血漿中濃度と尿中排泄に与える SGLT2 阻害薬エンパグリフロジンの影響: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

荒木 麻由実, 本橋 秀之, 畑中 彩恵子, 竹林 裕美子, 永井 純也. ラットにおける血糖バイオマーカー 1,5-anhydroglucitol の血漿中濃度と尿中排泄に与える SGLT2 阻害薬エンパグリフロジンの影響: 第 32 回 クリニカルファーマシーシンポジウム, 7 月 (熊本)

田中 智瑛, 吉村 昌浩, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也. ヒト腎近位尿細管上皮細胞株 HK-2 を用いたドキソルビン誘発細胞障害に及ぼすカルニチンの影響: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

神谷 瑞貴, 松田 早也香, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也. マウス肝における薬物トランスポーターの mRNA 発現に及ぼす HIF-PH 阻害薬ロキサデュスタットの影響: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

畑中 彩恵子, 本橋 秀之, 荒木 麻由実, 竹林 裕美子, 永井 純也. ラットにおける血糖バイオマーカー 1,5-anhydroglucitol の血漿中濃度と尿中排泄に与える SGLT2 阻害薬ダパグリフロジンの影響: 日本薬剤学会 第 39 年会, 5 月 (兵庫)

学術論文

Komai T, Togo T, Uchiyama H, Kadota K, Tozuka Y. 2024 Kinetics of crystal transformation of imatinib mesylate during formulation process: Selection of dry granulation in pharmaceutical process. *Powder Technol* **438**:119570, doi: 10.1016/j.powtec.2024.119570

Kämäräinen T, Nakayama Y, Uchiyama H, Tozuka Y, Kadota K. 2024 Oct Amyloid Nanofibril-Assisted Spray Drying of Crumpled Supraparticles. *Small* **20(40)**:e2309645, doi: 10.1002/sml.202309645

Kämäräinen T, Nogami S, Arima-Osonoi H, Iwase H, Uchiyama H, Tozuka Y, Kadota K. 2024 Sep Multiscale structure analysis of a pH-responsive gelatin/hydroxypropyl methylcellulose phthalate blend using small-angle scattering. *J Colloid Interface Sci* **669**:975-983, doi: 10.1016/j.jcis.2024.05.038

Uchiyama H, Minoura K, Yamada E, Ando K, Yamauchi R, Nakanishi A, Tandia M, Kadota K, Tozuka Y. 2024 Jul Solubilization mechanism of  $\alpha$ -glycosylated naringin based on self-assembled nanostructures and its application to skin formulation. *Eur J Pharm Biopharm* **200**:114316, doi: 10.1016/j.ejpb.2024.114316

Semba K, Kadota K, Kämäräinen T, Nakayama Y, Hatanaka Y, Uchiyama H, Arima-Osonoi H, Sugiyama K, Tozuka Y. 2024 Jul 16 Tailored Sugar-Mediated Porous Particle Structures for Improved Dispersion of Drug Nanoparticles in Spray-Freeze-Drying. *Langmuir* **40(28)**:14440-14454, doi: 10.1021/acs.langmuir.4c01165

Mo P, Hatanaka Y, Kämäräinen T, Furukawa S, Takase M, Yamanaka S, Doi M, Uchiyama H, Kadota K, Tozuka Y. 2024 Cocrystal Formulation Design of 4-Aminosalicylic Acid and Isoniazid via Spray-drying Based on a Ternary Phase Diagram toward Simultaneous Pulmonary Delivery. *Powder Technol* **445**:120126, doi: 10.1016/j.powtec.2024.120126

Ando K, Uchiyama H, Minoura K, Kadota K, Tozuka Y. 2024 The impact of adding a cationic metal salt and curcumin to monoammonium glycyrrhizic acid on its solubilizing capacity and gelation. *Chem Pharm Bull (Tokyo)* **72(9)**:838-844, doi: 10.1248/cpb.c24-00399

Sugimoto K, Uchiyama H, Kadota K, Yuki K, Tozuka Y. 2024 Elucidating the Factors Affecting the Patient-centric Usability of Blister Packs for Spherical Capsules. *Chem Pharm Bull (Tokyo)* **72(12)**:1048-1054, doi: 10.1248/cpb.c24-00572

## 総説

Kadota K, Uchiyama H, Kämäräinen T, Tanaka S, Tozuka Y. 2024 Building Respirable Powder Architectures: Precision in Particle Morphology Engineering for Enhanced Pulmonary Drug Delivery. *Expert Opin. Drug Deliv* **21**:945–963, doi: 10.1080/17425247.2024.2376702

内山 博雅. 2024 コアモルファスの調製法と評価法および応用例に関して. *粉体工学会誌 解説 フロンティア研究シリーズ* :680-686, doi: 10.4164/sptj.61.680

## 解説・プロシーディング・紀要・その他

門田 和紀, 畑中 友太, 内山 博雅, 戸塚 裕一. 2024 年 3 成分平衡状態図に基づく噴霧乾燥法による共結晶吸入粉末剤の設計. *ファインケミカル* 53:55-614

## 特許

張 子見, 戸塚 裕一, 内山 博雅, 門田 和紀. 自己乳化組成物. **特願 2024-175641** 日本たばこ産業株式会社

## 学会

Nakayama Y, Kämäräinen T, Uchiyama H, Kadota K, Tozuka Y. Design of spray-dried supraparticles containing carvedilol using amyloid nanofibrils as binder modifiers for controlled morphology: The 9th Asian Particle Technology Symposium, 12 月 (Sydney)

Tozuka Y, Hatanaka Y, Mo P, Kämäräinen T, Furukawa S, Takase M, Yamanaka S, Doi M, Oguchi T, Uchiyama H, Kadota K. Cocrystal preparation of 4-aminosalicylic acid/isoniazid for developing dry powder inhaler formulation of anti-tuberculosis drugs: The 9th Asian Particle Technology Symposium, 12 月 (Sydney)

青柳 龍征, 内山 博雅, 森下 太揮, 田仲 涼真, 門田 和紀, 安藤 大介, 小出 達夫, 戸塚 裕一. 薬物の溶出制御を目指したアモルファス塩含有溶解型マイクロニードル製剤の検討: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

長谷 美咲, 富樫 龍汰, 莫 佩文, 中山 結月, 田仲 涼眞, 内山 博雅, 田中 俊輔, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 薬物の溶出制御を目指したアモルファス塩含有溶解型マイクロニードル製剤の検討: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

下園 彩花, 中山 結月, Tero K, 田仲 涼眞, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. Supraparticles の粒子構造および形態に与える薬物添加の影響: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

Mo P, Hatanaka Y, Tanaka R, Uchiyama H, Minoura K, Kadota K, Tozuka Y. Design of catechin-containing jelly formulation with cyclodextrin addition to improve astringency and pH-dependent degradability: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

太田 早紀, 莫 佩文, 畑中 友太, 内山 博雅, 門田 和紀, 箕浦 克彦, 戸塚 裕一. 人工甘味料を利用した moxifloxacin 塩の設計と味覚特性評価: 日本海水学会誌 第 68 年会, 6 月 (沖縄)

莫 佩文, 箕浦 克彦, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. カテキン含有ゼリー剤の渋味抑制を目指したテクスチャー及び溶出制御: 日本海水学会誌 第 68 年会, 6 月 (沖縄)

安藤 憲太, 内山 博雅, 箕浦 克彦, 門田 和紀, 戸塚 裕一. KCl の添加がグリチルリチン酸モノアンモニウムの分子集合体形成および可溶化機構に及ぼす影響: 日本薬剤学会 第 39 年会, 5 月 (兵庫)

Mo P, Fujita S, Togashi R, Tanaka S, Uchiyama H, Kadota K, Tozuka Y. Drug-containing cyclodextrin metal-organic frameworks particles prepared by spray-drying with varying precursor compositions: 日本薬剤学会 第 39 年会, 5 月 (兵庫)

仙波 久実, Kämäräinen T, 中山 結月, 畑中 友太, 有馬 寛, 杉山 和正, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 凍結噴霧乾燥における糖を媒体とした多孔質粒子形成による薬物ナノ粒子の分散性向上: 日本薬剤学会 第 39 年会, 5 月 (兵庫)

## 学術論文

Uchiyama N, Shoji M, Onda M. 2024 Pharmacists' perception of evidence-based practice and experience in over-the-counter counseling: A cross-sectional study in Japan. *Pharmacy Practice (Granada)* **22**:2952, doi: 10.18549/PharmPract.2024.2.2952

Shoji M, Onda M. 2024 Nov 16 A Qualitative Study of Pharmacists' Perceptions of the Advantages and Disadvantages of Telepharmacy. *Pharmacy (Basel)* **12(6)**:169, doi: 10.3390/pharmacy12060169

Onda M, Inoue M, Zouchi K, Shoji M, Maeda H. 2024 Nov 28 Understanding the burden and influencing factors in family caregivers' medication assistance for patients with dementia: a survey study. *BMC Geriatr* **24(1)**:975, doi: 10.1186/s12877-024-05570-5

Fukuda Y, Ito R, Kakihana M, Takahashi T, Kanemoto T, Sahara T, Tsujikawa M, Onda M. 2025 Feb 3 Survey of medication history of patients with stroke after discharge from an acute hospital ward: a case series study. *J Pharm Health Care Sci* **11(1)**:10, doi: 10.1186/s40780-025-00415-8

Fukuda Y, Suzuki M, Ito R, Inaba J, Kanemoto T, Sahara T, Tsujikawa M, Onda M. 2024 Utilization and Issues Related to Discharge Medication Summaries from Hospital Pharmacies to Community Pharmacies. *Yakugaku Zasshi* **144(7)**:741-748, doi: 10.1248/yakushi.23-00214

Onda M, Horiguchi M, Domichi M, Sakane N. 2024 Aug 9 Effect of a Smoking Cessation Education Program on the Knowledge, Attitude, and Self-Efficacy of Community Pharmacists in Japan: A Quasi-Experimental Study. *Tob Use Insights* **17**:1179173X241272362., doi: 10.1177/1179173X241272362

## 著書

7章「医療制度」「社会・環境と健康 公衆衛生学の基礎を理解し実践につなげるために」  
pp168-174, ISBN 9784759818918

## 解説・プロシーディング・紀要・その他

恩田 光子. 2024 年 【他職種を知る;チーム医療・多職種協働を目指す専門医のために】認知症対応力の強化に向けた,チーム医療・多職種協働における薬剤師の役割. *老年精神医学雑誌* **35**:116-11224

恩田 光子. 2024 年 3 月 第 4 章アメリカにおける調査結果. 薬剤使用状況等に関する調査  
研究報告書 1-74

## 学会

Shoji M, Imafuku R, Mizomoto M, Onda M. Exploring how Japanese pharmacists provide  
reasonable accommodations for patients with intellectual disabilities: 30th Congress of the  
Federation of Asian Pharmaceutical Associations, 10 月 (Korea)

庄司 雅紀, 今福 輪太郎, 溝本 恵唯, 恩田 光子. 薬局薬剤師に対する知的能力障害患者へ  
の合理的配慮に関する研修効果の検証: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

船橋 英奈, 伊藤 将, 前田 守, 長谷川 佳孝, 月岡 良太, 恩田 光子. DPP-4 阻害薬新規導入  
患者の安全な服薬継続に向けた薬局薬剤師の介入プログラムの効果検証: 第 145 年会 日本  
薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

福田 裕子, 伊藤 里紗, 柿花 美紗紀, 國田 愛, 金本 哲二, 高橋 務, 佐原 敏之, 辻川 正  
彦, 恩田 光子. オンラインツールを用いた病院と薬局の双方向性の薬剤師間連携が、脳卒  
中患者の退院後の処方継続性に与える影響: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

庄司 雅紀, 恩田 光子. 薬剤師らのオンライン服薬指導の利点及び課題の体感に関する質  
的研究: 第 18 回 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会, 10 月 (福岡)

恩田 光子. 薬局薬剤師・保険薬局の価値とはー「薬局価値向上研究会」での議論を踏まえ  
て: 第 18 回 日本薬局学会学術総会, 11 月 (神奈川)

花原 凜, 出田 淳也, 木村 美早紀, 庄司 雅紀. 薬局管理栄養士が来局患者の健康被害回避  
及び健康増進に寄与できた事例: 第 18 回 日本薬局学会学術総会, 11 月 (神奈川)

高濱 雅, 恩田 光子. ポリファーマシーに対する医師の意識とその関連要因に関する観察  
研究: 第 8 回 日本老年薬学会学術大会, 5 月 (東京)

塩尻 哲嗣, 恩田 光子. 薬局薬剤師によるポリファーマシー対策の実施有無に影響を与え  
る要因に関する研究: 第 8 回 日本老年薬学会学術大会, 5 月 (東京)

八木 秀樹, 恩田 光子, 堀口 道子, 同道 正行, 坂根 直樹. 薬局薬剤師による禁煙支援の促進要因に関する研究—プリシード・プロシードモデルによる考察: 第 8 回 日本老年薬学会学術大会, 5 月 (東京)

庄司 雅紀, 恩田 光子. 薬剤師を対象とした発達障害に関する研修の効果の検証 : 第 9 回 日本薬学教育学会大会, 8 月 (東京)

## 臨床漢方薬学研究室

### 学術論文

M Shibano, K Matsuda, K Ozaki. 2024 Sep Chemical quality evaluation and characteristics of interspecific hybrid (G uralensis × G glabra) C-18 strain as a new Licorice cultivar. *J Nat Med* **78(4)**:876-886, doi: 10.1007/s11418-024-01819-w

尾崎 和男, 松田 昂樹, 太田 己翔, 芝野 真喜雄. 2024 キキョウ (Platycodon grandiflorus A DC) の採種条件の検討とそれらの発芽特性について. *薬用植物研究* **46(1)**:1-7,

尾崎 和男, 芝野 真喜雄. 2024 キキョウの栽培研究 吸水処理の効果と覆土の厚みについて. *薬用植物研究* **46(2)**:59-62,

### 著書

「ミニマムファクター漢方生薬学 第3版」 pp336

### 解説・プロシーディング・紀要・その他

芝野 真喜雄. 2024 年 薬用植物園の花ごよみ 第10回 大阪医科薬科大学薬用植物園. *フアルマシア* 60(3):230-231 [https://doi.org/10.14894/faruawpsj.60.3\\_2304](https://doi.org/10.14894/faruawpsj.60.3_2304)

### 学会

澤田 萌花, 松田 昂樹, 芝野 真喜雄. 加熱処理した清炒麻黄煎液の味覚および成分特性について: 第145年会 日本薬学会, 2025年3月 (福岡)

松田 昂樹, 芝野 真喜雄. 麻黄および清炒麻黄の脂肪分化抑制作用についての比較調査: 第145年会 日本薬学会, 2025年3月 (福岡)

羽田 容介, 喜多 さや, 池田 亜衣梨, 井口 将, 道善 聡, 岩野 英生, 芝野 真喜雄, 澤木 茂豊. 大和橘葉抽出物によるヒト皮膚における角層水分量の増加への可能性: 第145年会 日本薬学会, 2025年3月 (福岡)

草野 源次郎, 斎藤 貢, 村田 清志, 芝野 真喜雄. サラシナショウマ *Cimicifuga simplex* の試験栽培 1: 薬用植物栽培研究会 第6回研究総会, 11月 (東京)

尾崎 和男, 芝野 真喜雄. カラスビシャクの栽培研究 その2 育苗箱を利用した栽培法の可能性: 薬用植物栽培研究会 第6回研究総会, 11月 (東京)

末岡 昭宣, 芝野 真喜雄, 岩本 直久, 川原 信夫. 大阪医科薬科大学選抜ウルカンゾウの高知県における栽培評価: 薬用植物栽培研究会 第6回研究総会, 11月 (東京)

芝野 真喜雄, 堀江 翔, 峰晴 萌恵, 梶山 千穂, 尾崎 和男, 松田 昂樹. スペインカンゾウ *Glycyrrhiza glabra* の選抜系統のストロン苗による初期増殖のための工夫: 薬用植物栽培研究会 第6回研究総会, 11月 (東京)

## 学術論文

Ikura M, Nakamura T, Wada K, Nagata R, Ueno T, Kawabata K, Yoshihara F, Watanabe T, Tsukamoto Y. 2024 Nov Early acute kidney injury after tacrolimus administration in heart transplant recipients receiving basiliximab induction therapy. *Int J Clin Pharmacol Ther* **62(11)**:525-533, doi: 10.5414/CP204586

Kanbayashi Y, Tsuchiya E, Shimizu T, Uchida M. 2024 Jun Evaluation of time-to-onset and outcome of cardiac adverse events related to pembrolizumab using post-marketing surveillance in Japanese patients. *Daru* **32(1)**:279-287, doi: 10.1007/s40199-024-00516-z

Kanbayashi Y, Kobayashi S, Kojima A, Wakabayashi H, Shimizu T, Uchida M. 2024 Dec Disproportionality analysis of cardiac adverse events associated with lenvatinib using the Japanese Adverse Drug Event Report database. *Br J Clin Pharmacol* **90(12)**:3348-3354, doi: 10.1111/bcp.16237

Kanbayashi Y, Tomii R, Yamamoto N, Wakabayashi H, Anzai M, Shimizu T, Uchida M. 2025 Jan-Feb Evaluation of Times-to-onset and Outcomes of Lung Adverse Events Associated with Sorafenib Using JADER. *In Vivo* **39(1)**:360-366, doi: 10.21873/invivo.13836

Kanbayashi Y, Kaneko Y, Kobayashi M, Wakabayashi H, Shimizu T, Uchida M. 2025 Jan-Feb Evaluation of Lung Adverse Events Associated with Lenvatinib: A Post-marketing Surveillance Study. *In Vivo* **39(1)**:346-352, doi: 10.21873/invivo.13834

Kanbayashi Y, Ishikawa T, Taguchi T, Takayama K. 2025 Mar-Apr Factors Contributing to Blood Glucose Elevation Associated with Olanzapine Used as an Antiemetic During Cancer Chemotherapy. *In Vivo* **39(2)**:902-908, doi: 10.21873/invivo.13894

Kanbayashi Y, Kano R, Tsuchiya E, Wakabayashi H, Kawahara Y, Shimizu T, Uchida M. 2025 Mar 31 Disproportionality analysis of cardiac adverse events associated with sorafenib using Spontaneous Reporting Database in Japanese. *Pharmazie* **80(1)**:29-32, doi: 10.1691/ph.2025.4624.

## 総説

矢野 良一, 角山 香織, 佐藤 卓史. 2024 薬学教育に求められる「知識統合」とは. *薬学教育* **8**:2024-020, doi: 10.24489/jjphe.2024-022

和田 恭一. 2025 今こそ知りたい JAK 阻害薬 「これまでの免疫を抑えるくすりのしくみ」. 薬局 76:65-69,

## 著書

検査値リスト「治療薬ハンドブック 2025 高久史麿 監修; 堀正二 他編」

中村 敏明. 2024 年 厚生労働省, PMDA など行政機関が発行する資料「Crosslink 薬学テキスト 医薬品情報学 真野 泰成 編集」 pp119-122,

角山 香織. 2024 年 第 3 章 医薬品の情報源と収集 7 製薬企業などが発行する資料「Crosslink 薬学テキスト 医薬品情報学 真野 泰成 編集」 pp123-129

## 解説・プロシーディング・紀要・その他

矢野 良一. 2024 年 薬学教育における女性医学の位置づけと今後の課題. 日本女性医学学会ニースレター 29:34

## 学会

Iwanaga K, Wakamatsu N, Nakamura T. Study on Insoluble Complex Formation between Medicines and Catechins in Green Tea and Avoiding Method by Using Polyvinylpyrrolidones: 11th International Conference on Polyphenols and Health, 10 月 (Boston)

Nakamura T, Ikura M, Wada K, Nagata R, Ueno T, Kawabata K, Yoshihara F, Watanabe T, Tsukamoto Y. Evaluating the incidence of acute kidney injury and tacrolimus dosing regimen in heart transplant recipients receiving basiliximab induction therapy: IATDMCT 2024, 9 月 (Banff)

松村 光紗, 中村 敏明, 角山 香織, 矢野 良一, 岩永 一範, 中野 一也, 山西 香織, 中蔵 伊知郎, 畝 佳子, 中村 任. 降圧薬配合錠処方開始前後のアドヒアランス変化と MACE 発症率の関連解析: 医療薬学フォーラム 2024/第 32 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 7 月 (熊本)

神林 祐子, 土谷 恵蓮, 清水 忠, 内田 まやこ . ペムブロリズマブによる心臓関連有害事象の発症時期と転帰の評価: 日本の市販後調査データを用いた解析: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

矢野 良一, 角山 香織, 羽田 理恵, 加藤 隆児, 佐藤 卓史, 中村 敏明. 全国の薬学部における知識統合を促進する取り組み: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

矢野 良一. オピオイドと抗がん剤併用による薬力学的相互作用について: 第 17 回 日本緩和医療薬学会, 5 月 (東京)

神林 祐子, 田口 哲也, 石川 剛, 高山 浩一. 順序ロジスティック回帰分析を用いた FEC 療法による口腔粘膜炎または味覚障害の要因解析 (単一施設における後ろ向き研究): 第 34 回 日本医療薬学会年会, 11 月 (千葉)

矢野 良一. 査読対応の Tips: 第 34 回 日本医療薬学会年会, 11 月 (千葉)

矢野 良一. 新コアカリ改訂の概要と薬剤師の卒前教育における大学の取り組み: 第 34 回 日本医療薬学会年会, 11 月 (千葉)

長谷川 裕矢, 宮脇 未来, 板井 進悟, 荒木 隆一, 上塚 朋子, 間瀬 広樹, 矢吹 拓, 矢野 良一. 本邦の病院薬剤部門における症例検討会の現状: 第 34 回 日本医療薬学会年会, 11 月 (千葉)

向井 優太郎, 宮本 康二, 坂本 麻衣, 中野 一也, 山西 香織, 中蔵 伊知郎, 和田 恭一, 中村 任, 畝 佳子, 草野 研吾. 直接経口抗凝固薬の血中濃度に対するポリファーマシーの影響について: 第 34 回 日本医療薬学会年会, 11 月 (千葉)

松村 光紗, 中村 敏明, 角山 香織, 矢野 良一, 岩永 一範, 交久瀬 綾香, 今西 嘉生里, 坂本 麻衣, 中野 一也, 山西 香織, 中蔵 伊知郎, 畝 佳子, 中村 任. 降圧薬配合錠の服薬アドヒアランスと脳心血管イベント発症期間との関連解析: 第 34 回 日本医療薬学会年会, 11 月 (千葉)

神林 祐子, 石川 剛, 大辻 英吾, 高山 浩一. 血管新生阻害剤による血栓塞栓症発症の予測因子の探索 (単施設における後ろ向き研究): 第 62 回 癌治療学会学術大会, 10 月 (福岡)

藤井 知華, 岩永 一範, 中村 任. カルビドパ共存下グルコマンナン添加量の違いによる溶液中レボドパ濃度の評価: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

若松 望, 中村 任, 岩永 一範. 緑茶での服用がドネペジルの吸収に及ぼす影響 ～Caco-2 細胞透過性について～: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

西田 智史, 山下 和彦, 吉岡 佐恵, 岩永 一範, 山本 和宏, 矢野 育子, 中村 任. 食道癌 FP 療法後の血漿バイオメタル濃度と同位体比の変動評価: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

神林 祐子, 石川 剛, 大辻 英吾, 高山 浩一. 順序ロジスティック回帰分析を用いたオキサリプラチンによる末梢神経障害の予測因子の探索: 第 9 回日本がんサポーターズケア学会 学術集会, 5 月 (埼玉)

## 学術論文

Kusumoto K, Habuchi K, Sakuma S, Okuhira K. 2024 L-Theanine protects against methylglyoxal-induced oxidative stress and tight junction disruption in human cerebral microvascular endothelial cells. *Food Nutr Sci* **15**(12):1218-1229, doi: 10.4236/fns.2024.1512077

Kusumoto K, Sasaki K, Uchida Y, Utsumi A, Yoshida T, Obika S, Inoue T, Okuhira K. 2025 Jan 2 Multispanning membrane protein SIDT2 increases knockdown activity of gapmer antisense oligonucleotides. *Sci Rep* **15**(1):586, doi: 10.1038/s41598-024-84310-6

Azuma T, Matsunaga N, Ohmagari N, Kuroda M. 2024 Apr 5 Development of a High-Throughput Analytical Method for Antimicrobials in Wastewater Using an Automated Pipetting and Solid-Phase Extraction System. *Antibiotics (Basel)* **13**(4):335, doi: 10.3390/antibiotics13040335

Azuma T, Usui M, Hasei T, Hayashi T. 2024 Jul 29 On-Site Inactivation for Disinfection of Antibiotic-Resistant Bacteria in Hospital Effluent by UV and UV-LED. *Antibiotics (Basel)* **13**(8):711, doi: 10.3390/antibiotics13080711

Usui M, Azuma T, Katada S, Fukuda A, Suzuki Y, Nakajima C, Tamura Y. 2024 Hyperthermophilic Composting of Livestock Waste Drastically Reduces Antimicrobial Resistance. *Waste Manage Bull* **2**(3):241-248, doi: 10.1016/j.wmb.2024.08.001

Usui M, Fukuda A, Azuma T, Kobae Y, Hori Y, Kushima M, Katada S, Nakajima C, Suzuki Y. 2024 Vermicomposting Reduces the Antimicrobial Resistance in Livestock Waste. *J Hazard Mater Adv* **16**:100491, doi: 10.1016/j.hazadv.2024.100491

Azuma T, Usui M, Hasei T, Hayashi T. 2024 Nov 25 Occurrence and Environmental Fate of Anti-influenza Drugs in an Urban River in a Subcatchment of the Yodo River Basin, Japan. *Sci Total Environ.* **953**:176086, doi: 10.1016/j.scitotenv.2024.176086

## 総説

東 剛志. 2025 薬剤耐性菌による新たな環境汚染問題－医療と環境との繋がり－. *インフエクションコントロール* **34**(1):76-81,

## 解説・プロシーディング・紀要・その他

東 剛志, 臼井 優, 具 芳明, 西 圭史, 堀野 哲也, 壁谷 英則. 2025 年 ワンヘルス・アプローチ～AMR の現状と今後の課題. 春放談 71(1):1-304

## 学会

西山 寧々, 楠本 嵩志, 羽渕 康容, 加藤 貴子, 辻村萌恵, 佐久間 覚, 奥平 桂一郎. 血液脳関門障害を評価する実験系の検討: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

安井 司, 水島 壮一郎, 羽渕 康容, 楠本 嵩志, 佐久間 覚, 奥平 桂一郎. スカベンジャー受容体クラス B タイプ 1 の発現量変化によるトランスフェクション効率の評価: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

小泉 安由紗, 楠本 嵩志, 羽渕 康容, 佐久間 覚, 奥平 桂一郎. Methylglyoxal による血液脳関門の密着結合に及ぼす障害機構の検討: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

小島 日和, 羽渕 康容, 楠本 嵩志, 佐久間 覚, 奥平 桂一郎. ミクログリア細胞におけるレスベラトロールの ABCA7 発現量に対する影響: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

井上 麻里萌, 羽渕 康容, 楠本 嵩志, 大佐古 沙南, 佐久間 覚, 奥平 桂一郎. 脂肪細胞分化に及ぼす活性窒素種の役割: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

横谷 遥, 永尾 綾菜, 中野 優花, 楠本 嵩志, 羽渕 康容, 佐久間 覚, 奥平 桂一郎. 高密度リポタンパク質 (HDL) の糖化が機能に及ぼす影響: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

中野 友絵, 羽渕 康容, 楠本 嵩志, 加藤 早希, 浅井 蘭茄, 田畑 なる, 佐久間 覚, 奥平 桂一郎. パクリタキセル封入 HDL の作製と抗腫瘍効果の検討: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

三輪 保翔, 榎本 陽菜, 楠本 嵩志, 羽渕 康容, 佐久間 覚, 辻田 麻紀, 奥平 桂一郎. 小腸スカベンジャー受容体 B1 ノックアウトマウスの作製: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

奥平 桂一郎. ミニシンポジウム 1 「脂質の輸送と輸送体、その働きとメカニズム」 オーガナイザー: 第 45 回 生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 10 月 (徳島)

奥平 桂一郎. フィンゴリモド (FTY720) による ABCA1 を介した脂質蓄積抑制機構: 第 56 回 日本動脈硬化学会総会・学術総会, 7 月 (兵庫)

羽渕 康容, 楠本 嵩志, 中井 麻由美, 小島 日和, 佐久間 寛, 奥平 桂一郎. アルツハイマー病関連タンパク質 ABC トランスポーターA7 の発現制御機構の解明: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

## 学術論文

Sasaki H, Seoka R, Yagi M, Komano J. 2024 The Role of Human Mobility Flow in the region-to-region spread of Respiratory Syncytial Virus Infection Among Infants. *Biol Pharm Bull* **47(5)**:924-929, doi: 10.1248/bpb.b23-00767.

Sagisaka Y, Ishibashi M, Hosokawa D, Nakagawa H, Yonogi S, Minami K, Suzuki Y, Ogawa T, Ukimura A, Nakano T, Komano J. 2024 Sep 16 Regional and temporal genotype profiling of *Clostridioides difficile* in a multi-institutional study in Japan. *Sci Rep* **14(1)**:21559, doi: 10.1038/s41598-024-72252-y

Kanbayashi D, Kurata T, Kaida Y, Miyoshi T, Okayama F, Kase T, Komano J, Takahashi K, Ikuta K, Motomura K. 2025 Feb 20 How to prevent rubella epidemics and congenital rubella syndrome: lessons from 42 years of longitudinal epidemiology in Osaka Prefecture, Japan (1982-2023). *J Infect Dis* **231(2)**:440-450, doi: 10.1093/infdis/jiae402.

Tanabe T, Mitome H, Miyamoto K, Akira K, Tsujibo H, Tomoo K, Nagaoka K, Funahashi T. 2024 Apr Analysis of the vibrioferrin biosynthetic pathway of *Vibrio parahaemolyticus*. *Biometals*, **37(2)**:507-517, doi: 10.1007/s10534-023-00566-x

Tanabe T, Miyamoto K, Nagaoka K, Tsujibo H, Funahashi T. 2025 Effect of (p)ppGpp on the Expression of the Vibrioferrin-Mediated Iron Acquisition System in *Vibrio parahaemolyticus*. *Biol Pharm Bull* **48(2)**:188-194, doi: 10.1248/bpb.b24-00624

Sasaki H, Seoka R, Yagi M, Komano J. 2024 The Role of Human Mobility Flow in the region-to-region spread of Respiratory Syncytial Virus Infection Among Infants. *Biol Pharm Bull* **47(5)**:924-929, doi: 10.1248/bpb.b23-00767

## 総説

宮本勝城. 2024 鉄を標的とした新規感染症治療薬の開発. *Yakugaku Zasshi* **144**:633-641, doi: 10.1248/yakushi.23-00197-2.

## 著書

「感染症 駒野 淳, 大井 一弥, 安 武夫 編者」 pp30-37, 55-62, 112-137, 188-203, 237-266, 327-364, ISBN 978-4-525-23981-7

## 学会

松田 捺見, 駒野 淳. 空飛ぶ *Clostridioides difficile*(1): 第 16 回 大気バイオエアロゾルシンポジウム, 2025 年 2 月 (大阪)

谷 桃佳, 駒野 淳. 空飛ぶ *Clostridioides difficile*(2): 第 16 回 大気バイオエアロゾルシンポジウム, 2025 年 2 月 (大阪)

久利 歩, 駒野 淳. 日本人 HIV-1 感染者における CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型と血漿中ビクテグラビル濃度の関連: 第 37 回 近畿エイズ研究会総会, 6 月 (大阪)

西川 真央, 茂中 陽香瑠, 河原 彩乃, 安岡 あづき, 目次 結香, 金子 和樹, 八木 真裕子, 駒野 淳. LGALS3 機能阻害が単純ヘルペスウイルス 1 型の複製に与える影響について: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

岡田 花名美, 金子 和樹, 浜 みなみ, 八木 真裕子, 駒野 淳. SGMS1 欠損による HSV-1 複製への影響に関する研究: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

佐藤 佑香, 駒野 淳. 新型コロナウイルス感染症の伝搬ルートに関する調査研究: 第 36 回 微生物シンポジウム, 8 月 (東京)

茂中 陽香瑠, 西川 真央, 目次 結香, 金子 和樹, 安岡 あづき, 八木 真裕子, 駒野 淳. ガレクチン 3 阻害剤 GB1107 による HSV-1 の感染抑制に関する研究: 第 36 回 微生物シンポジウム, 8 月 (東京)

久利 歩, 駒野 淳. CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型がビクテグラビルの薬物動態および血清クレアチニンに及ぼす影響: 第 38 回 日本エイズ学会, 11 月 (東京)

細川 大輔, 石橋 都, 駒野 淳. 臨床と環境分離株の分子疫学的解析による *Clostridioides difficile* の地域独自性の検証: 第 39 回 日本環境感染学会総会・学術集会, 7 月 (京都)

石橋 都, 細川 大輔, 駒野 淳. エアロゾルから分離された *Clostridioides difficile* の遺伝子型と臨床分離株との比較検討: 第 39 回 日本環境感染学会総会・学術集会, 7 月 (京都)

安岡 あづき, 西川 真央, 目次 結香, 金子 和樹, 齊木 瞳, 茂中 陽香瑠, 八木 真裕子, 遊

佐 宏介, 駒野 淳. CRISPR-Cas9 システムを用いたゲノムワイドスクリーニングによるコク  
サッキーウイルス B3 複製の新たな複製制御因子 LGALS3(Galectin-3)の同定: 第 47 回 日本  
分子生物学会年会, 11 月 (福岡)

## 生体機能解析学研究室

### 学術論文

Tanaka T, Isonishi A, Banja M, Yamamoto R, Sonobe M, Okuda-Ashitaka E, Furue H, Okuda H, Tatsumi K, Wanaka A. 2024 Nov 8 Dermal macrophages control tactile perception under physiological conditions via NGF signaling. *Sci Rep* **14**(1):27192, doi: 10.1038/s41598-024-78683-x

Potapenko IV, Ishikawa T, Okuda H, Hori K, Ozaki N. 2024 Nov 19 Chemogenetic inhibition of pain-related neurons in the posterior insula cortex reduces mechanical hyperalgesia and anxiety-like behavior during acute pain. *Biochem Biophys Res Commun* **734**:150625, doi: 10.1016/j.bbrc.2024.150625

### 学会

石川 達也, 奥田 洋明, 堀 紀代美, 尾崎 紀之. 痛み刺激に応答する大脳皮質一次体性感覚野神経細胞の機能解析: 第 130 回 日本解剖学会・第 102 回 日本生理学会・第 98 回 日本薬理学会 合同大会 (APPW2025), 2025 年 3 月 (千葉)

松本 依子, 田中 智, 中筋 結菜, 井原 空, 奥田 洋明, 坂口 実. ヒト乳がん細胞 MDA-MB-231 細胞の遊走と浸潤におけるプロリルオリゴペプチダーゼの機能解析: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

## 生化学研究室

### 学術論文

Tian Q, Yin Y, Tian Y, Wang Y, Wang Y, Fukunaga R, Fujii T, Liao A, Li L, Zhang W, He X, Xiang W and Zhou L. 2024 May Chromatin Modifier EP400 Regulates Oocyte Quality and Zygotic Genome Activation in Mice. *Adv Sci (Weinh)* **11(20)**:e2308018, doi: 10.1002/advs.202308018

### 学会

山田 実奈, 芳田 瑞月, 木岡 誠, 浅木 誠, 戸嶋 義樹, 近藤 良一, 鷹屋 優希, 吉川 葵, 藤井 俊裕, 藤井 忍, 伊藤 千紘, 福永 理己郎. MAPKAP キナーゼファミリーの多重ノックアウト HeLa 細胞を用いた各キナーゼの役割分担の解析: 第 70 回 日本生化学会近畿支部例会, 5 月 (大阪)

田村 茜, 富田 美月, 佐藤 太一, 藤井 俊裕, 藤井 忍, 伊藤 千紘, 福永 理己郎. ヒト単球系 THP-1 細胞の SAPK 多重ノックアウト細胞の作製と、炎症応答における SAPK ファミリー分子の役割分担の解析: 第 70 回 日本生化学会近畿支部例会, 5 月 (大阪)

## 薬品物理化学研究室

### 学術論文

Tanabe T, Mitome H, Miyamoto K, Akira K, Tsujibo H, Tomoo K, Nagaoka K, Funahashi T. 2024  
Apr Analysis of the vibrioferrin biosynthetic pathway of *Vibrio parahaemolyticus*. *Biometals*  
**37(2)**:507-517, doi: 10.1007/s10534-023-00566-x

### 著書

10 章 固体の性質「物理化学（第2版増補版）石田寿昌 編者」 pp161-174

## 機能分子創製化学研究室

### 学術論文

Hayashi J, Ochi Y, Senpuku K, Wada S, Wada F, Harada-Shiba M, Urata H. 2024 Apr 15 Rational design of prodrug-type apoB-targeted siRNA for nuclease resistance improvement without compromising gene silencing potency. *Bioorg Med Chem* **104**:117693, doi: 10.1016/j.bmc.2024.117693

Funai T, Tanaka N, Sugimachi R, Wada S, Urata H. 2024 Nov 27 Zn<sup>2+</sup> ions improve the fidelity of metal-mediated primer extension while suppressing intrinsic and Mn<sup>2+</sup>-induced mutagenic effects by DNA polymerases. *Org Biomol Chem* **22(46)**:9094-9100, doi: 10.1039/d4ob01433b

### 学会

Yoshimoto M, Wada S, Yoshii Y, Inaki A, Fujii H. Impact of pentadecanoic acid conjugation to 111In/225Ac-RGD peptide on pharmacokinetics and therapeutic effects : EANM'24 - Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine, 10 月 (Hamburg)

若森 恵太, 榎本 豊, 橋川 柚月, 和田 俊一, 浦田 秀仁. siRNA の細胞内送達を目的としたエンドソーム内環境応答型 Aib 含有細胞膜透過性ペプチドの有効性評価: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

若森 恵太, 榎本 豊, 橋川 柚月, 和田 俊一, 浦田 秀仁. Functional Aib-containing CPP with a cleavable cross-linker in the endosomal environment for the delivery of siRNA: 第 61 回 ペプチド討論会, 10 月 (愛知)

榎本 豊, 若森 恵太, 和田 俊一, 浦田 秀仁. siRNA の細胞内輸送を目指した生体内環境応答型ペプチド性キャリアの設計と合成 —アセタールリンカーを有する Aib 含有両親媒性ヘリックスペプチド-RGD の合成—: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

浦田 秀仁, 杉本 紀人, 林 淳祐, 和田 俊一. プロドラッグ型リン酸トリエステル修飾核酸の天然型核酸への変換反応: 日本核酸医薬学会 第 9 回年会, 7 月 (宮城)

浦田 秀仁, 杉本 紀人, 林 淳祐, 和田 俊一. プロドラッグ型リン酸トリエステル修飾核酸の天然型核酸への変換反応: 日本核酸医薬学会 第 9 回年会, 7 月 (宮城)

## 有機薬化学研究室

### 学術論文

Arai T, Oshima M, Uemura M, Matsunaga T, Ashizawa T, Suhara Y, Morii M, Yoneyama H, Usami Y, Harusawa S, Komeda S, Hirota Y. 2024 Nov 4 Azolato-Bridged Dinuclear Platinum(II) Complexes Exhibit Androgen Receptor-Mediated Anti-Prostate Cancer Activity. *Inorg Chem* **63(44)**:20951-20963, doi: 10.1021/acs.inorgchem.4c01093

### 総説

Harusawa S, Yoneyama H, Usami Y. 2024 Generation of Alkylidene Carbenes Through Tetrazole Fragmentation: Recent Advances and Application to Organic Synthesis. *Synthesis* **56**:1851-1861, doi: 10.1055/a-2260-5652

### 特許

Hosohata K, Takai S, Yoneyama H, Jin D, Usami Y. VANIN-1 INHIBITOR. US **12,128,016 B2**  
大阪医科薬科大学

### 学会

Hosohata K, Yoneyama H, Jin D, Usami Y, Takai S. Synthesis and Activity Evaluation of Novel Pantetheine Derivatives with Vanin-1 Inhibition: 64th Annual Meeting & ToxExpo, 2025 年 3 月 (米国)

馬場 輝, 葉山 登, 米山 弘樹, 宇佐美 吉英. (-)-Rancinamycin Ia の合成: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

米山 弘樹, 飯田 峻平, 植村 優希, 奥村 黛志, 細畑 圭子, 金 徳男, 葉山 登, 宇佐美 吉英, 高井 真司. 不可逆的 vanin-1 阻害剤の検討とプロモ基をもつパンテテイン誘導体の合成研究: 第 29 回 日本病態プロテアーゼ学会学術集会, 9 月 (東京)

神路 浩美, 本田 千恵, 堀山 志朱代, 葉山 登, 萩中 淳. アビラテロン誘導体に対する分子鋳型ポリマーの調製と応用: 第 36 回 バイオメディカル分析科学シンポジウム, 8 月 (静岡)

米山 弘樹, 岡田 彩海, 葉山 登, 春沢 信哉, 宇佐美 吉英. シアノホスフェートとテトラブチルアンモニウムアジドとの反応: アリールニトリル及びリン酸モノエチルエステルの生成: 第 50 回 反応と合成の進歩シンポジウム 10 月 (兵庫)

葉山 登, 神路 浩美, 矢田 麻奈衣, 米山 弘樹, 本田 千恵, 萩中 淳, 宇佐美 吉英. カルバマゼピンを捕捉する分子インプリントポリマーの開発: 第 53 回 複素環化学討論会, 10 月 (山口)

宇佐美 吉英, 浅田 夏月, 静間 千紘, 根来 紅凜, 河合 良祐, 葉山 登, 米山 弘樹. ビニルカルビノール構造を有するシクロペンテノン型天然物の合成研究: 第 66 回 天然有機化合物討論会, 9 月 (京都)

岩見 優輝, 米山 弘樹, 葉山 登, 宇佐美 吉英 . ビフェニル部位をもつパンテテイン誘導体の新規合成法の開発 : 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

植村 優希, 奥村 黛志, 中西 彩恵, 堀 早苗, 前田 澄怜, 深見 優希, 米山 弘樹, 葉山 登, 宇佐美 吉英. 4-アミノ-1-アリール-2-ブタノンを用いるパンテテイン誘導体の合成法の開発 : 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

南方 咲途美, 米山 弘樹, 葉山 登, 宇佐美 吉英. ヒスタミン H3 受容体リガンドを基にしたチロシナーゼ阻害活性スクリーニング調査: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

城戸崎 彩乃, 高澤 帆夏, 原 史子, 高田 慎也, 萩森 政頼, 葉山 登, 萩中 淳, 堀山 志朱代. アビラテロン新規代謝物の構造および代謝経路の解析: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

本田 千恵, 神路 浩美, 葉山 登, 萩中 淳. カルバマゼピンおよびその誘導体に対する分子インプリントポリマーの保持能および分子認識能の評価: 日本分析化学会 第 73 年会, 9 月 (愛知)

## 医薬分子化学研究室

### 学術論文

Hirano T, Yasuda D, Yamada T, Kagechika H. 2025 Development of fluorescent estrogen receptor ligands with pH sensor functionality. *Chem Pharm Bull (Tokyo)* **73(4)**:412-418, doi: 10.1248/cpb.c24-00685

### 著書

第3編, 第8章 光機能分子「医療工学研究の最前線 三林 浩二, 影近 弘之, 岸田 晶夫 監修」 pp253-259

### 学会

浅田 萌香, 小橋 彬徳, 板垣 奈々, 安田 大輔, 影近 弘之, 平野 智也. 特定の pH 領域で機能する光機能分子の構造と機能に関する開発研究 : 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

井上 小有里, 山内 紗季, 井上 大輔, 安田 大輔, 大江 知之, 平野 智也. アゼチジン骨格を有するナフタレン-2-アセトアミド誘導体の細胞内 Nrf2 活性化効果: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

植田 祐一郎, 秋山 敏毅, 安田 大輔, Zhen K, 平野 智也, 山下 泰信, 高田 悠里, 伊藤 幸裕, 鈴木 孝禎. アジド基を持つ Nrf2 活性化薬の創製研究 : 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

安田 大輔, 豊島 海, 多胡 めぐみ, 大江 知之, 金光 佳世子, 今村 理世, 小島 宏建, 海東 和麻, 平野 智也. ナフタレン-2-アセトアミド型 Keap1-Nrf2 PPI 阻害剤の創成: 第 41 回 メディシナルケミストリーシンポジウム, 11 月 (京都)

平野 智也, 安田 大輔, 影近 弘之. 生体分子応答型光分解性保護基の開発: 第 46 回 日本光医学・光生物学会, 7 月 (静岡)

平野 智也, 龍神 央明, 浅田 萌香, 板垣 奈々, 安田 大輔, 影近 弘之. 特定の pH 領域で機能する光機能分子の開発研究 : 第 50 回 反応と合成の進歩シンポジウム 10 月 (兵庫)

秋山 敏毅, 安田 大輔, Zhen K, 平野 智也, 山下 泰信, 高田 悠里, 伊藤 幸裕, 鈴木 孝禎.  
ビススルホンアミド型 Keap1-Nrf2 PPI 阻害剤の創製研究 : 第 50 回 反応と合成の進歩シ  
ンポジウム 10 月 (兵庫)

古賀 勇希, 安田 大輔, 楠木 萌, 藤本 達喜, 磯野 真理子, 加藤 大輝, 影近 弘之, 平野 智  
也. 過酸化水素存在下で機能するケージド化合物の開発 : 第 74 回 日本薬学会 関西支部  
総会・大会 10 月 (兵庫)

井原 ななみ, 安田 大輔, 谷梨 理子, 宮治 紗羅, 岡 優希, 北川 星来, 竹信 慶乃, 高絢 一  
果, 上川 拓也, 影近 弘之, 平野 智也. N1-メチルアデノシンを検出する蛍光センサーの開  
発研究 : 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

安田 大輔, 井上 大輔, 海東 和麻, 多胡 めぐみ, 大江 知之, 平野 智也. タンパク質間相  
互作用阻害型 Nrf2 モジュレーターの開発 : 日本ケミカルバイオロジー学会 第 18 回年会,  
5 月 (東京)

## 学術論文

Kimura Y, Taniguchi M. 2024 Dec Effects of morroniside isolated from *Cornus officinalis* fruits on functional gastrointestinal disorders and gastric ulcer in mice. *Fitoterapia* **179**:106249, doi: 10.1016/j.fitote.2024.106249

Sato K, Sasaki Y, Ohno-Oishi M, Kano K, Aoki J, Ohsawa K, Doi T, Yamakoshi H, Iwabuchi Y, Kawano C, Hirata Y, Nakazawa T. 2024 Jul 18 New Dihydropyridine Derivative Attenuates NF- $\kappa$ B Activation via Suppression of Calcium Influx in a Mouse BV-2 Microglial Cell Line. *Tohoku J Exp Med* **263**(2):151-160, doi: 10.1620/tjem.2024.J024

## 学会

村上 能庸, 川越 愛以, 細野 貴行, 西川 有美, 荻野 文敏, 馬場 きみ江, 谷口 雅彦, 古川 福実. 薄膜状基質を用いた室内環境プロテアーゼ阻害化合物の検討: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

平田 佳之, 波片 志保里, 宇藤 春香, 谷口 雅彦. 固相抽出法によるアポルフィンアルカロイド定量法の開発: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

鳥居 幸奈, 鎌田 理代, 飯島 亮介, 濱田 健作, 藤井 暁, 谷口 雅彦, 大藏 直樹. 黒酢および黒酢もろみ末のメタボリックシンドロームに関連した病態改善効果の検討: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

新屋 和花, 韓 俊文, 三浦 謙治, 谷口 雅彦, 杉山 暁史, 矢崎 一史, 棟方 涼介. セリ科植物アシタバにおける三環性クマリン類の環化制御機構の解明: 第 41 回 日本植物バイオテクノロジー学会, 8 月 (仙台)

村上 能庸, 川越 愛以, 細野 貴行, 西川 有美, 荻野 文敏, 馬場 きみ江, 谷口 雅彦, 古川 福実. 天然化合物の評価のための薄膜状基質を用いた酵素阻害活性測定法の検討: 日本生薬学会 第 70 回年会, 9 月 (大阪)

平田 佳之, 宇藤 春香, 波片 志保里, 谷口 雅彦. 酸棗仁に含まれるアポルフィンアルカロイドの構造解析並びに酸棗仁の修治に関する成分変化について: 日本生薬学会 第 70 回年会, 9 月 (大阪)

## 分子構造化学研究室

### 学術論文

Asano A, Nakayama K, Okada S, Kato T, Doi M. 2024 Aug 9 Puckering effects of 4-hydroxy-L-proline isomers on the conformation of ornithine-free Gramicidin S. *Acta Crystallogr E Crystallogr Commun* **80(Pt 9)**:942-946, doi: 10.1107/S2056989024007771

Iyoshi A, Ueda A, Umeno T, Kato T, Hirayama K, Doi M, Tanaka M. 2024 Sep 12 Conformational Analysis and Organocatalytic Activity of Helical Stapled Peptides Containing  $\alpha$ -Carbocyclic  $\alpha,\alpha$ -Disubstituted  $\alpha$ -Amino Acids. *Molecules* **29(18)**:4340, doi: 10.3390/molecules29184340

Oba M, Nonaka H, Umeno T, Kato T, Doi M, Ueda A, Tanaka M. 2025 Apr Redox-Responsive Side Chain Structural Changes in a Seven-Membered Cyclic  $\alpha,\alpha$ -Disubstituted  $\alpha$ -Amino Acid with a Disulfide Bond Enable Reversible Conformational Changes in Peptides. *Chempluschem* **90(4)**:e202400772, doi: 10.1002/cplu.202400772

Kato T, Ofuka G, Kobayashi R, Asano A, Doi M. 2025 Feb Evaluation of peptide secondary structure and intracellular uptake by introducing disubstituted amino acids into the amphipathic helical peptide C18AA. *Results in Chemistry* **14**:102103, doi: 10.1016/j.rechem.2025.102103

Asano A, Sakata M, Kato T, Doi M. 2025 Mar 27 Fluorine-hydrogen interactions observed in a helix structure having an orn-free gramicidin S sequence incorporating 4-trans -fluoroproline. *Acta Crystallogr E Crystallogr Commun* **81(Pt 4)**:345-349., doi: 10.1107/S2056989025002592

### 解説・プロシーディング・紀要・その他

Kato T, Yamamoto Y, Kosukegawa N, Yoshikawa A, Asano A, Doi M. 2024 年 Development of helical peptides utilizing aspartate picolyl ester as a side chain crosslink by metal ions. *PEPTIDE SCIENCE 2023* 135-136 ISBN:978-4-931541-245 ISSN:1344-76613

### 学会

加藤 巧馬, 大深 豪, 小林 遼太, 浅野 晶子, 土井 光暢. 両親媒性ヘリカルペプチド C18AA へのジ置換アミノ酸導入によるペプチド二次構造と細胞膜透過性の評価: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

井本 桜子, 加藤 巧馬, 浅野 晶子, 土井 光暢. 両親媒性ペプチドの親水性部位へのジ置換アミノ酸導入による細胞膜透過性への影響評価: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

巽 梨花, 加藤 巧馬, 浅野 晶子, 土井 光暢. 疎水性膜透過性ペプチド TP1 への  $\alpha, \alpha$ -ジ置換アミノ酸の導入による影響の評価: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

井吉 彬太, 上田 篤志, 梅野 智大, 加藤 巧馬, 平山 和浩, 土井 光暢, 田中 正一. 環状ジ置換アミノ酸を架橋部位とした炭素架橋ペプチドによる不斉エポキシ化: 第 50 回 反応と合成の進歩シンポジウム 10 月 (兵庫)

Kato T, Ofuka G, Kobayashi R, Asano A, Doi M.. Evaluation of secondary structure and membrane permeability by introducing disubstituted amino acids into amphipathic helical peptide C18AA: 第 61 回 ペプチド討論会, 10 月 (愛知)

井吉 彬太, 上田 篤志, 梅野 智大, 加藤 巧馬, 平山 和浩, 土井 光暢, 田中 正一. 架橋部位に環状ジ置換アミノ酸を用いた炭素架橋ペプチドによる不斉エポキシ化: 日本プロセス化学会 2024 サマーシンポジウム, 7 月 (長崎)

## 薬学教育推進センター

### 著書

山沖 留美, 落合 りょう, 平田 雅彦. 2024 年 放射線照射したヒアルロン酸の分子鎖切断効果「第 61 回アイソトープ・放射線研究発表会」

山沖 留美, 落合 りょう, 平田 雅彦. 2025 年 ヒアルロン酸を用いたホウ素剤の腫瘍への集積「日本薬学会 145 年会」

山沖 留美. 2024 年 放射線の基礎と安全取り扱い「放射化学実習」

山沖 留美. 2024 年 放射性医薬品「放射化学実習」

### 学会

宮崎 誠. 紙と鉛筆でできる!?! 体内動態の変化を予想する エピソード 1: 大阪医科薬科大学 公開教育講座 サテライトセミナー, 10 月 (大阪)

山沖 留美, 落合 りょう, 平田 雅彦. ヒアルロン酸を用いたホウ素剤の腫瘍への集積: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

片野坂 七音, 宮崎 誠. 看護学部における薬物動態学教育に関する調査: 本学看護学部シラバスを中心に: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

西本 彩花, 宮崎 誠. インタビューフォームにおける母集団薬物動態解析結果の記載に関する実態調査: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

大山 和香, 宮崎 誠. 自習用教材を目的とした不等間隔投与時の血中薬物濃度シミュレーターの開発: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

宮崎 誠. 読解力と学部成績および国家試験成績との関係 薬学教育の研究から: 第 4 回医療系大学のための教学 IR セミナー, 9 月 (大阪 ハイブリッド開催)

山沖 留美, 落合 りょう, 平田 雅彦. 放射線照射したヒアルロン酸の分子鎖切断効果: 第 61 回 アイソトープ・放射線研究発表会, 7 月 (東京)

羽田 理恵, 高畑 茉由子, 佐藤 卓史, 宮崎 誠. 初年次教育「アカデミックスキル」の教育効果の解析: 第9回日本薬学教育学会大会, 8月 (東京)

## 学術論文

Uchiyama H, Minoura K, Yamada E, Ando K, Yamauchi R, Nakanishi A, Tandia M, Kadota K, Tozuka Y. 2024 Jul Solubilization mechanism of  $\alpha$ -glycosylated naringin based on self-assembled nanostructures and its application to skin formulation. *Eur J Pharm Biopharm* **200**:114316, doi: 10.1016/j.ejpb.2024.114316

Ando K, Uchiyama H, Minoura K, Kadota K, Tozuka Y. 2024 The impact of adding a cationic metal salt and curcumin to monoammonium glycyrrhizic acid on its solubilizing capacity and gelation. *Chem Pharm Bull (Tokyo)* **72(9)**:838-844, doi: 10.1248/cpb.c24-00399

## 解説・プロシーディング・紀要・その他

Fujitake M, Harusawa S. 2024 年 3 月 Accurate Molecular Weight Measurements of Cystine Derivatives on FAB-MS. *大阪医科薬科大学 薬学部雑誌* 2:105-1164

## 学会

山沖 留美, 平田 雅彦, 落合 りょう. ヒアルロン酸を用いたホウ素剤の腫瘍への集積: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

藤嶽 美穂代, 春沢 信哉. ジスルフィド結合をもつ環状オリゴペプチドの FAB-MS:  $[M+n2H+H]^+$ による S-S 結合数の解析: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

Mo P, Hatanaka Y, Tanaka R, Uchiyama H, Minoura K, Kadota K, Tozuka Y. Design of catechin-containing jelly formulation with cyclodextrin addition to improve astringency and pH-dependent degradability: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

山田 拓磨, 田代 竜, 植村 雅子, 箕浦 克彦, 米田 誠治. 一本鎖 DNA 液滴を高効率に形成するカチオン性白金(II)二核錯体: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

梨元 優里, 春沢 信哉, 藤嶽 美穂代. 環状オリゴペプチドに対するジスルフィド結合数の MS 解析: 第 74 回 日本薬学会 関西支部総会・大会 10 月 (兵庫)

太田 早紀, 莫 佩文, 畑中 友太, 内山 博雅, 門田 和紀, 箕浦 克彦, 戸塚 裕一. 人工甘味料を利用した moxifloxacin 塩の設計と味覚特性評価: 日本海水学会誌 第 68 年会, 6 月 (沖縄)

莫 佩文, 箕浦 克彦, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. カテキン含有ゼリー剤の渋味抑制  
を目指したテクスチャー及び溶出制御: 日本海水学会誌 第 68 年会, 6 月 (沖縄)

安藤 憲太, 内山 博雅, 箕浦 克彦, 門田 和紀, 戸塚 裕一. KCl の添加がグリチルリチン酸  
モノアンモニウムの分子集合体形成および可溶化機構に及ぼす影響.: 日本薬剤学会 第 39  
年会, 5 月 (兵庫)

## 言語文化学グループ

### 学会

Amagase Y, Takei Y. Improvement of Aged Recognition Memory by a Novel Crosstalk between Peritoneal Cells and the Hippocampus: 13th International Symposium on Cell/Tissue Injury and Cytoprotection/Organoprotection (ISCTICO), 11 月 (京都)

天ヶ瀬 葉子, スミス 朋子, 堀 朋子, 村木 美紀子, 榎原 佳織, 野口 ジュディー . affix 学習スマートフォンアプリを用いた医療専門用語習得の効果検証: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

## 自然科学グループ

### 学術論文

Azad KN, Alam MNE, Nagata M, Tomano S, Ono H, Sugai K, Hirohashi N. 2024 May 22 Males conditionally inseminate at three female body locations according to female mating history and female maturity status in a squid. *Sci Rep* **14**(1):11702, doi: 10.1038/s41598-024-62062-7

J Tian, Z Cheng, C Yu, M Lyu, T Myo, M Isaka, H Toki, H Horiuchi, A Doté, H Takemoto, N Wan, Q Zhao. 2024 Lambda motion and cluster states of  $9\text{-}11\Lambda\text{Be}$  predicted via neural networks guided microscopic calculation. *Phys Lett B* **855**:138816, doi: 10.1016/j.physletb.2024.138816

Myo T, Lyu M, Zhao Q, Isaka M, Wan N, Takemoto H, Horiuchi H, Dote A. 2025 Cluter configurations in Li Isotopes in the Variation of Multi-Bases of the Antisymmetrized Molecular Dynamics. *Prog. Theor. Exp. Phys* **1**:013D01, doi: 10.1093/ptep/ptae187

J Tian, M Lyu, Z Cheng, M Isaka, A Doté, T Myo, H Horiuchi, H Takemoto, N Wan, Q Zhao. 2025 Hypernuclear cluster states of  $12\Lambda\text{B}$  unveiled through neural network-driven microscopic calculation. *Phys. Lett. B* **862**:139338, doi: 10.1016/j.physletb.2025.139338

### 学会

Takemoto H. Excited state s of  $8\text{Be}$ : Tensor-Tokai joint meeting, 2025 年 2 月 (茨城 ハイブリッド開催)

明 孝之, Lyu M, Zhao Q, Wan N, 井坂 政裕, 竹本 宏輝, 堀内 昶, 土手 昭伸. 多配位 AMD 波動関数の変分による Li,Be 核のクラスター構造の記述: 日本物理学会 2025 年春季大会 2025 年 3 月 (Web 開催)

#### 人間文化学グループ

##### 著書

城下 賢一. 2024 年 「きょうだいの日本史 『日本歴史』編集委員会」 pp245-253, ISBN 9784642084550

#### 環境医療学グループ

##### 解説・プロシーディング・紀要・その他

トビアス・バウアー, 阪本 恭子. 2024 年 6 月 匿名による子どもの委託と生殖補助医療における出自を知る権利に関する日独比較研究. 科学研究費助成事業研究成果報告書

## 生涯学習センター

### 学会

松本 依子, 田中 智, 中筋 結菜, 井原 空, 奥田 洋明, 坂口 実. ヒト乳がん細胞 MDA-MB-231 細胞の遊走と浸潤におけるプロリルオリゴペプチダーゼの機能解析: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)

中川 晶由見, 田中 智, 大和田 知歩, 西堂 美砂, 日野 公美子, 奥田 洋明, 坂口 実, 米山 弘樹, 春沢 信哉, 宇佐美 吉英. ヒト乳がん細胞株 MDA-MB-231 の増殖に及ぼす新規ヒスタミン H3 受容体拮抗薬の影響: 第 145 年会 日本薬学会, 2025 年 3 月 (福岡)